



TITLE:

高等教育教授システム開発センター 一日誌(2001年9月～2002年8月)他

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育教授システム開発センター日誌(2001年9月～2002年8月)他. 京都大学高等教育研究 2002, 8: 234-252

ISSUE DATE:

2002-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54110>

RIGHT:

高等教育教授システム開発センター日誌

(2001年9月1日～2002年8月31日)

年 月 日	記 事
2001. 9. 8	第47回公開研究会 報告者：大山泰宏 センター助教授 テーマ：大学教育評価の課題と展望 ― 評価理論の観点から ―
9. 20	協議員会
10. 1	助教授 石村雅雄 鳴門教育大学学校教育学部助教授に転任(2002年3月31日まで センター助教授を併任)
10. 13	第48回公開研究会 報告者：生田孝至 新潟大学教育人間科学部教授 テーマ：遠隔教育による教師教育の可能性
11. 10	第49回公開研究会 報告書：尾崎仁美 大阪大学大学院人間科学研究科助手 溝上慎一 センター講師 コメンテーター：白井利明 大阪教育大学教育学部教授 谷田 薫 関西学院大学総合教育研究室実験助手 司会者：水間玲子 奈良女子大学文学部助手 テーマ：130人の学生と共に調査した大学生1,200人のインタビュー結果報告 ― 学生中心型のFDを考える素材に ―
12. 1	第50回公開研究会 報告者：岡部美香 愛媛大学教育学部講師 中戸義雄 大阪大学大学院人間科学研究科助手 テーマ：遠隔地大学在住者どうしの相互授業研究 ― 教育原理系授業実践をめぐって ―
12. 4	第1回教育改善連続シンポジウム (企画・調整専門委員会 調整(評価)小委員会と共催) 「教育評価のあり方をめぐって」
12. 13	協議員会

2002. 1. 17 第2回教育改善連続シンポジウム
(企画・調整専門委員会 調整(評価)小委員会と共催)
「専門教育と学生の授業参加・授業評価——経済学部の場合——」
1. 31 第3回教育改善連続シンポジウム
(企画・調整専門委員会 調整(評価)小委員会と共催)
「シラバスのあり方」(藤岡完治 センター教授 講演)
2. 28 運営委員会
3. 1 第4回教育改善連続シンポジウム
(企画・調整専門委員会 調整(評価)小委員会と共催)
「電子メディアによる教育支援」
3. 23 第1回大学教育研究集会
カリキュラム研究部会
基調講演 生和秀敏(広島大学総合科学部教授)
「学士課程教育における教育プログラム制の導入」
授業研究部会
基調講演 織田揮準(三重大学教育学部教授)
「授業改善ツールとしての大福帳の意義」
FD研究部会
基調講演 井下 理(慶應義塾大学総合政策学部教授)
「FD論——慶應義塾大学SFCの実践を手がかりにして——」
- 第8回大学教育改革フォーラム
「大学教育評価をどうするか——評価からFDへ——」
開会の辞 荒木光彦 センター長
挨拶 長尾 真 総長
司会 荒木光彦 センター長
溝上慎一 センター講師
問題提起Ⅰ 館 昭 大学評価・学位授与機構教授
問題提起Ⅱ 安岡高志 東海大学理学部教授
問題提起Ⅲ 大山泰宏 センター助教授
閉会の辞 荒木光彦 センター長
4. 1 松下佳代 助教授に採用
協議員委嘱：助教授 松下佳代
運営委員委嘱：助教授 松下佳代
- 平成14年度学外研究協力者：
生田 孝至 新潟大学教育人間科学部教授

池田 輝政	名古屋大学高等教育研究センター教授
石村 雅雄	鳴門教育大学学校教育学部助教授
伊藤 秀子	メディア教育開発センター教授
井下 理	慶應義塾大学総合政策学部教授
大塚 雄作	大学評価・学位授与機構教授
尾崎 仁美	京都ノートルダム女子大学人間文化学部講師
小林 亮	京都光華女子大学人間関係学部助教授
清水 豊子	千葉大学教育学部教授
田口 真奈	メディア教育開発センター助手
竹熊 耕一	京都学園大学経済学部教授
濱野 清志	京都文教大学人間学部教授
波多野和彦	メディア教育開発センター助教授
藤田 哲也	京都光華女子大学文学部助教授
米谷 淳	神戸大学大学教育研究センター助教授
三尾 忠男	早稲田大学教育学部助教授
水間 玲子	奈良女子大学文学部助手
三宅なほみ	中京大学情報科学部教授
村上 正行	京都外国語大学外国語学部講師
矢野 裕俊	大阪市立大学文学部教授
山地 弘起	メディア教育開発センター助教授
山田 礼子	同志社大学文学部助教授
山内 乾史	神戸大学大学教育研究センター助教授
吉田 文	メディア教育開発センター教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部助教授

平成14年度学内研究担当教官：

河野 敬雄	総合人間学部教授
小田 伸午	総合人間学部助教授
子安 増生	大学院教育学研究科教授
田中 耕治	大学院教育学研究科教授
楠見 孝	大学院教育学研究科助教授
杉本 均	大学院教育学研究科助教授
佐藤 進	大学院経済学研究科講師
野間 昭典	大学院医学研究科教授
建山 和由	大学院工学研究科助教授
中條 善樹	大学院工学研究科教授
川崎 昌博	大学院工学研究科教授
井上 國世	大学院農学研究科教授
田川 正朋	大学院農学研究科助教授
富谷 至	人文科学研究所教授
美濃 導彦	学術情報メディアセンター教授
井手 亜里	国際融合創造センター教授

- 財団法人稲森財団研究助成「映像メディアを用いた事例研究(ケースメソッド)の研究開発」(代表 大山泰宏)
4. 26 第51回公開研究会
報告者：絹川 正吉 国際基督教大学学長
テーマ：教養教育について
4. 28 助教授 大山泰宏「基盤研究(B)(2)「バーチャルユニバーシティ構築の基礎づけに関する総合的研究」(研究代表者 田中每実)による海外研究及び海外視察」のためアメリカ合衆国へ海外出張(2002. 5. 5帰国)
5. 1 運営委員の交代：
農学研究科教授 野田公夫から 同研究科教授 井上國世に
5. 24 協議員会(持ち廻り)
6. 1 第52回公開研究会
報告者：大山泰宏 センター助教授
テーマ：学生支援のあり方をめぐって——臨床心理学の立場から
6. 6 第5回教育改善連続シンポジウム
(企画・調整専門委員会 調整(評価)小委員会と共催)
「成績評価と学生による授業評価——アンケート結果を素材にしたFD討論会——」(溝上慎一 センター講師 講演)
7. 5 文部科学省科学研究費補助金による基盤研究(B)(2)継続
「バーチャルユニバーシティ構築の基礎づけに関する総合的研究」
研究代表者：田中 每実 センター教授
研究分担者：
子安 増生 大学院教育学研究科教授
美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
伊藤 秀子 メディア教育開発センター教授
大山 泰宏 センター助教授
荒木 光彦 センター長・大学院工学研究科教授
角所 考 学術情報メディアセンター助教授
吉田 文 メディア教育開発センター助教授
神藤 貴昭 センター助手
井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
田部井 潤 浜松大学国際経済学部助教授
柴原 宜幸 日本橋学館大学人文経営学部助教授
藤岡 完治 センター教授
石村 雅雄 鳴門教育大学学校教育学部助教授

田中 耕治 大学院教育学研究科教授
田口 真奈 メディア教育開発センター助手
溝上 慎一 センター講師
三尾 忠男 早稲田大学教育学部助教授
中村 素典 学術情報メディアセンター助教授
波多野和彦 メディア教育開発センター助教授

海外共同研究者:

ジェームズ・ウィルキンソン
ハーバード大学デレック・ボク「教授・学習」センター所長
ホセ・アレハンドロ・ラミレス
プエブラ・アメリカ大学教育学部教授
ケニス・ケンプナー オレゴン大学教育学部助教授

7. 1 財団法人大川情報通信基金研究助成「遠隔大学間合同授業に関する実践的研究——遠隔授業の可能性の検討——」(代表 田中毎実)
7. 22 タイ国、国立行政開発研究所大学代表团 訪問

高等教育教授システム開発センター業績

(2001年9月1日～2002年8月31日)

藤岡完治(教授)

【著書など】

- ・藤岡完治「参加観察と物語ることを取り入れた教員研修」野嶋栄一郎編『教育実践を記述する——教えること・学ぶことの技法』金子書房、2002年2月、176-192頁
- ・藤岡完治・堀喜久子編『看護教育の方法』医学書院、2002年3月、全184頁

【学術論文など】

- ・藤岡完治「大学の授業はどのように行われ学生は何を学んでいるのか」『大学教育学会誌』第24巻第1号(通巻45号)、2002年5月、74-88頁
- ・藤岡完治「大学授業の構造と学生の学習経験の関連に関する研究——大学授業の参加観察を通して——」『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、1-23頁
- ・藤岡完治「平成13年度公開実験授業の概要」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、1-3頁
- ・藤岡完治「藤岡完治担当授業」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、193-279頁
- ・藤岡完治「大学授業の変容過程の研究——「授業構想」「学生による評価」「授業の振り返り」を組み込んだ授業改善——」京都大学高等教育教授システム開発センター・授業参加観察プロジェクト担当チーム『大学授業の参加観察プロジェクト報告(2)——大学授業の参加観察からFDへ——』京都大学高等教育叢書14、2002年3月、1-26頁
- ・藤岡完治・杉原真晃「リレー式講義『総合人間学を求めてI』における学生の学び——学生のレポートの分析を中心に——」京都大学高等教育教授システム開発センター・授業参加観察プロジェクト担当チーム『大学授業の参加観察プロジェクト報告(2)——大学授業の参加観察からFDへ——』京都大学高等教育叢書14、2002年3月、27-53頁

【学会報告など】

- ・藤岡完治「大学授業の参加観察(その2)——授業の構造と学生感想の関連から——、日本教育工学会第17回大会、鹿児島大学、2001年11月
- ・藤岡完治 企画シンポジウム「大学生への自己理解教育実践」指定討論 日本発達心理学会第13回大会、早稲田大学、2002年3月
- ・藤岡完治・杉原真晃「相互研修としてのFD——公開実験授業の検討会の構造分析を通して——」日本高等教育学会第5回大会、愛知学院大学、2002年5月

【その他の著作物】

- ・藤岡完治「大学の授業、同僚が参観」日本経済新聞、2001年7月
- ・藤岡完治「大学授業研究の方法」第1回京都大学高等教育教授システム開発センター大学教育研究集会、2002年3月
- ・藤岡完治「授業研究の新しいパラダイム 藤沢市教育文化センター教育実践臨床研究『学びに立ち会う』——授業研究の新しいパラダイム教育実践臨床研究の経験藤沢市教育文化センター教育実践臨床研究 2002年3月 7-23頁及び59-74頁

【FD講演会など】

- ・文部科学省メディア教育開発センター・京都大学高等教育教授システム開発センター共催「SCS利用研修 公開実験授業によるFD 学びあいのネットワークをめざして」研修講師(2002年2月20日)

【社会における活動など】

- ・東京女子医科大学医学部非常勤講師「教育原論」(2001年7月7日－9日)
- ・九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門国際教育環境学講座非常勤講師「授業」(2001年12月26日－27日)

田 中 毎 実 (教授)

【著書など】

- ・田中毎実「〈総括〉大学授業研究から大学教育学へ」(『大学授業の構想——過去から未来へ——』) 2002年3月、東信堂、185-206頁
- ・田中毎実「コメント「大学教育」再考」(『児童心理学の進歩2002年版』) 2002年6月、金子書房、293-298頁

【学術論文など】

- ・田中毎実「啓蒙活動から相互研修へ——京都大学高等教育教授システム開発センターのFDプロジェクトをめぐって——」京都大学高等教育教授システム開発センター『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、25-35頁
- ・田中毎実「啓蒙と相互研修の間——工学部FDプロジェクトの意義」(新工学部教育プログラム実施検討委員会編『ディベート形式による工学部FDシンポジウム——工業化学科・地球工学科・物理工学科／京都大学高等教育叢書12』) 2001年12月、117-125頁
- ・田中毎実「田中毎実担当授業」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、15-48頁
- ・田中毎実「遠隔ゼミにおける学生集団・教員集団の文化的差異」(特定領域研究(A)高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究『研究成果報告書／平成13年度計画研究』) 2002年3月、397-404頁
- ・田中毎実「教育的公共性のために」(一般研究(C)教育における〈公共性〉に関する人間形成論的総合研究——現代社会における教育責任の原理的基盤を求めて——) 2002年3月、80-95頁
- ・田中毎実・森田尚人「総括的報告」(課題研究／「学力論」の問題圏)(教育哲学会『教育哲学研究』第85号) 2002年5月、36-41頁
- ・田中毎実「京都大学高等教育教授システム開発センターの研究開発プロジェクト」民主教育協会雑誌『IDE 日本の高等教育』2002年8月号、70-72頁

【その他の著作物】

- ・「講演 授業公開から見える大学教育の課題」(島根大学教育学部FDプロジェクト『ファカルティ・ディベロップメント』59頁) 2002年3月、1-19頁
- ・「FDと学生の授業評価」(跡見学園女子大学FD委員会『跡見学園女子大学FDジャーナル創刊号』15頁) 2002年3月、3-5頁
- ・「京都大学制作の公開実験授業ビデオ」(関西大学全学共通教育推進機構FD部門委員会・授業評価部門委員会『関西大学FDフォーラム Vol. 3』15頁) 2002年7月、2-4頁

【学会報告など】

- ・「ラインの向こうとこちら——遠隔ゼミにおける学生集団・教員集団の異文化性」(平成13年電気・情報関連学会連合大会／日本学術学会シンポジウム：バーチャル・ユニバーシティと教育改革) 2001年9月
- ・「京都大学のFDプロジェクト」(日本教育工学会、鹿児島大学) 2001年10月
- ・シンポジウム「〈学力論〉の問題圏」司会(教育哲学会、福岡教育大学) 2001年10月
- ・MURAKAMI, M., OZAWA, S., SHINTO, T., TAGUCHI, M. & TANAKA, T. (2001) "Analysis of Communication between Groups on Web Board in Distance Seminar with Lodging", ICCE2001, Seoul, Korea, 2001年11月
- ・「臨床的人間形成論の成立可能性」(臨床人間学研究会、青山大学) 2001年12月 大学教育研究集会

【FD講演会など】

- ・香川大学 FD研修会、2001年9月
- ・島根大学 FD研修会、2001年10月

- ・和歌山大学 F D フォーラム、2001年11月
- ・山形大学 公開授業の参観と公開授業講師、2001年11月
- ・椋山女学園 第2回椋山F Dカンファレンス、2001年11月
- ・関西大学 教職員第2回F Dフォーラム、2001年12月
- ・文部科学省メディア教育開発センター・京都大学高等教育教授システム開発センター共催「SCS利用研修 公開実験授業によるF D 学びあいのネットワークをめざして」研修講師、2002年2月20日
- ・神戸学院大学 F D ワークショップ、2002年2月
- ・大阪外語大学 F D 研究会、2002年3月
- ・星城大学 F D 研究会、2002年4月
- ・鳥取県教育委員会、2002年6月

【非常勤講師など】

- ・奈良女子大学大学院文学研究科非常勤講師「生涯教育学特殊研究」(2001年度通年)

【社会における活動など】

- ・教育思想史学会理事
- ・文部科学省メディア教育開発センター 研修事業委員会委員
- ・大学セミナーハウス 大学教員研修プログラム委員
- ・大学コンソーシアム京都研修委員
- ・広島大学高等教育研究開発センター客員研究員
- ・島根大学法文学部外部評価委員
- ・光華女子大学外部評価委員(副委員長)
- ・宮崎大学教育文化学部外部評価委員

【学内委員など】

- ・京都大学調整評価小委員会委員
- ・京都大学人間・環境学研究科及び総合人間学部の組織改編に関する専門委員会委員
- ・京都大学大学院工学研究科自己点検・評価委員
- ・京都大学高等教育研究開発推進機構設置準備委員会委員

松 下 佳 代 (助教授)

【著書など】

- ・松下佳代「算数・数学の学力と『基礎・基本』」日本教育方法学会編『教育方法30 学力観の再検討と授業改革』図書文化、2001年10月、26-39頁
- ・Matsushita, K., From Monologic to Dialogic Learning: A Case Study of Japanese Mathematics Classroom. M. Hedegaard (Ed.), *Learning in Classrooms: A Cultural-Historical Approach*. Aarhus, Denmark: Aarhus University Press, 2001, pp. 211-225
- ・松下佳代「授業を創り出す」片上宗二・田中耕治編『学びの創造と学校の再生』ミネルヴァ書房、2002年4月、50-68頁

【学術論文など】

- ・松下佳代「学習のコンテクストの理論的枠組み——活動システムを分析単位として——」平成11~13年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書『教室の数学文化と学習のコンテクストの生成——探究の文化と受験文化の対立に焦点をあてながら——』(研究代表者 松下佳代)、2002年3月(全109頁)
- ・松下佳代「外国籍児童は教室でどう学習しているか——太田市A小学校での観察から——」平成11~13年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書『群馬県太田・大泉の小中学校国際化の実態と求められる教員資質の総合的研究』(研究代表者 所澤潤)、2002年3月、117-140頁

【学会報告など】

- ・「自ら学び、考える力をどうとらえ、いかに評価するか——教科教育・学力論の立場から——」(教育目標・評価学会公開シンポジウム「自ら学び、考える力をどうとらえ、いかに評価するか」)、作新学院大学、2001年10月

【その他の著作物】

- ・京都大学企画・調整専門委員会調整(評価)小委員会、報告書『京都大学教育改善連続シンポジウム(2) 全学共通科目の授業に関する評価・改善アンケート』2002年8月

【その他の講演】

- ・松下佳代「わが国の数学教育の可能性と問題点——初等・中等レベルについて——」関西工学教育協会第75回研究集会(主催:関西工学教育協会)、京都ガーデンパレス、2002年2月
- ・松下佳代「認知科学からみた数学教育」数学教育協議会第50回全国研究大会、琉球大学教育学部、2002年8月

【非常勤講師など】

- ・群馬大学大学院教育学研究科非常勤講師「教育内容・方法学特論」(2002年前期集中)

【社会における活動など】

- ・教育目標評価学会理事
- ・教育目標評価学会紀要編集委員会委員
- ・数学教育協議会研究局員

【学内委員など】

- ・学術情報メディアセンター学内共同利用運営委員会委員
- ・調整評価小委員会ワーキンググループ委員

大 山 泰 宏 (助教授)

【学術論文など】

- ・大山泰宏「大学教育評価の課題と展望」『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、37-55頁
- ・大山泰宏「大山泰宏担当授業」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、49-109頁

【その他の著作物】

- ・書評 私注目2000-2001の書籍・論文5、『臨床心理学』第2巻第1号、2002年1月、126-127頁
- ・「授業評価は教育改善に役に立つのか?」『兵庫教育大学ファカルティディベロップメント推進プログラム平成13年度推進経費研究成果報告書』、兵庫教育大学、2002年3月、52-70頁
- ・『学生の現在と教育の再生——大学教育研究と臨床心理学の立場から』平成16年度福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センターFDセミナー報告書、2002年3月、全18頁
- ・「大学教育システムにおける学生サービスの意義と役割」『第39回全国学生相談研修会報告書』、日本学生相談学会、2002年3月、24-25頁
- ・京都大学企画・調整専門委員会調整(評価)小委員会、報告書『京都大学教育改善連続シンポジウム(2) 全学共通科目の授業に関する評価・改善アンケート』2002年8月

【学会報告など】

- ・日本心理臨床学会第21回全国大会「自主シンポジウム——夢と身体」日本大学、2001年9月
- ・大山泰宏「多層的リアリティ構成を通じた教養教育の可能性」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001年10月

【FD講演会など】

- ・第39回全国学生相談研修会「小講義 高等教育システムにおける学生サービスの意義と役割」講師、2001年11月
- ・京都大学工学部(建築学科)教育シンポジウム、コメンテーター、2001年11月
- ・奈良女子大学FD講演会「学生による授業評価からFDへ」講演講師、2001年11月
- ・京都大学工学部(土木工学)講演会「FDの意義と役割」、2001年12月

- ・兵庫教育大学 講演「授業評価は教育改善に役に立つのか?」、2002年2月
- ・文部科学省メディア教育開発センター・京都大学高等教育教授システム開発センター共催「SCS利用研修 公開実験授業によるFD 学びあいのネットワークをめざして」研修講師、2002年2月
- ・福岡教育大学 講演「学生の現在と教育の再生」、2002年3月
- ・京都大学コンソーシアム FDフォーラム 第1分科会「FDの組織的取り組み」報告者、2002年3月
- ・日本学生相談学会 第14回学生相談セミナー 基調講演「学生相談と大学教育」、2002年3月
- ・第8回大学教育改革フォーラム「大学教育評価をどうするか 評価からFDへ」問題提起Ⅲ、2002年3月
- ・鳴門教育大学 学部授業改善のための講演会「授業公開と授業改善」、2002年5月
- ・成城大学 講演「京都大学の公開授業と授業検討会」、2002年7月
- ・帯広畜産大学 講演「大学改革としての学生支援」、2002年8月
- ・京都薬科大学 講演「授業評価は教育改善に役に立つのか?」、2002年8月
- ・日本私立大学連盟 学生厚生補導研究会夏期合宿研究会 特別企画講演「変革期の大学に求められる新しい厚生補導」、2002年8月
- ・京都大学全学シンポジウム「新しい教養教育の在り方」イブニング・ディスカッション第5班「教育の達成度の評価——「京都大学卒業」とは何か」副班長、2002年8月

【その他の講演】

- ・医療法人徳州会松原病院 職員研修「アサーティヴコミュニケーション」2001年10月
- ・京都第二赤十字病院「卒後研修Ⅱ」研修講師、2001年10月
- ・大阪市環境保健局「看護職員研修」研修講師、2002年1月
- ・島根県臨床心理士会研修会講師、2002年2月
- ・児童養護施設 立正学園 処遇検討会講師、2001年11月、2002年6月
- ・奈良市教育委員会カウンセリング講座講師、2002年7月、8月
- ・島根県臨床心理士会(島根大学教育学部附属教育実践研究指導センター共催) 講演「子どもの心育てを考える——学校臨床心理学の観点から」、2002年7月

【非常勤講師など】

- ・島根大学教育学部 集中講義「学校臨床心理学特論」 2002年2月
- ・京都第二赤十字看護専門学校「教育キャンプ」講師、2002年3月

【社会における活動など】

- ・日本心理臨床学会「カリキュラム委員会」委員
- ・京都府警察本部「新政策形成研究会『犯罪被害者支援』」研究者(～2002年3月)
- ・京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践センター心理教育相談室カウンセラー
- ・医療法人竹村診療所心理カウンセラー

【学内委員など】

- ・京都大学大学情報収集・分析センター助教授(兼任)(2002年4月～)
- ・中期計画策定及び大学評価に係る基礎データ収集・分析に関するワーキンググループ(～2002年3月)
- ・京都大学調整評価小委員会委員
- ・京都大学工学部・大学院工学研究科 自己点検・評価委員
- ・京都大学大学評価委員会第三者評価専門委員会委員
- ・京都大学大学評価委員会『教養教育』作業部会オブザーバー

溝 上 慎 一(講師)

【著書など】

- ・溝上慎一編『大学生の自己と生き方——大学生固有の意味世界に迫る大学生心理学——』ナカニシヤ出版、2001年10月

- ・溝上慎一「わが国の大学教育改革と「大学基礎講座」——発刊によせて——」藤田哲也編『大学基礎講座——これから大学で学ぶ人におくる「大学では教えてくれないこと」——』北大路書房、2002年3月、159-164頁
- ・溝上慎一「アイデンティティ概念に必要な同定確認(identify)の主体的行為——実証的アイデンティティ研究の再検討——」梶田毅一編『自己意識研究の現在』ナカニシヤ出版、2002年3月、1-28頁
- ・溝上慎一「自己評価の規定要因と人との関係性——自己評価の高低における関係性の構造の違い——」梶田毅一編『自己意識研究の現在』ナカニシヤ出版、2002年3月、153-170頁
- ・溝上慎一「学生の理解の枠組みをふまえた授業展開——教授技術論をのり越えるための視点——」京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業研究の構想——過去から未来へ——』東信堂、2002年3月、57-86頁
- ・溝上慎一「コメント2——田中論文「〈総括〉大学授業研究から大学教育学へ」を受けて——」京都大学高等教育教授システム開発センター編『大学授業研究の構想——過去から未来へ——』東信堂、2002年3月、210-218頁

【学術論文など】

- ・村上正行・田口真奈・溝上慎一「日米間遠隔一斉講義における講師・受講生の評価変容の分析」『日本教育工学雑誌』25(3)、2001年12月、199-206頁
- ・溝上慎一・田口真奈「ポジション理論を援用して授業者の成長を見る」『京都大学高等教育研究』7、2001年8月、57-69頁
- ・藤田哲也・溝上慎一「授業通信による学生との相互行為Ⅰ——学生はいかに「藤のたより」を受け止めているか——」『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、71-87頁
- ・溝上慎一・藤田哲也「授業通信による学生との相互行為Ⅱ——相互行為はいかにして作られたか——」『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、89-110頁
- ・井下理・溝上慎一「井下理・溝上慎一担当授業」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、111-143頁
- ・溝上慎一「学生の経験世界から見た「総合人間学を求めて」の授業構造化と学生の学び——学生による知の越境へのアプローチ——」京都大学高等教育教授システム開発センター・授業参加観察プロジェクト担当チーム『大学授業の参加観察プロジェクト報告(2)——大学授業の参加観察からFDへ——』京都大学高等教育叢書14、2002年3月、54-78頁

【学会報告など】

- ・溝上慎一・尾崎仁美「大学生の将来の見通しを求める学年の文脈——「今優勢」「将来優勢」の観点から——」日本教育心理学会第43回大会、愛知教育大学、2001年9月
- ・溝上慎一「抽象度の高い自己・アイデンティティの概念から具象度の高い質的世界の理解を目指して——事例から一般化をはかるボトムアップ——」小沢一仁・溝上慎一自主シンポジウム「われわれは「アイデンティティ」「自己」研究から青年の何を理解したか?——「青年理解」に向けての枠組みと方法論的示唆——」日本教育心理学会第43回大会、愛知教育大学、2001年9月
- ・溝上慎一「京都大学公開実験授業における検討会の新たな構造化を目指して」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001年11月
- ・藤田哲也・溝上慎一「大学授業における授業通信の効果——学生とのコミュニケーション・ツールを超えて——」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001年11月
- ・村上正行・田口真奈・溝上慎一「日米間遠隔一斉講義における共同学習の有効性」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001年11月
- ・溝上慎一「会員企画シンポジウム「大学生への自己理解教育実践」企画及び話題提供「自己理解教育の授業研究——自己理解を促す授業デザインとは——」」日本発達心理学会第13回大会、早稲田大学、2002年3月
- ・溝上慎一「ラウンドテーブル「アイデンティティとダイナミズム」企画及び指定討論」日本発達心理学会第13回大会、早稲田大学、2002年3月

【その他の著作物】

- ・溝上慎一「全学共通科目の授業に関する評価・改善アンケート」企画・調整専門委員会・調整(評価)小委員会『京都大学教育改善連続シンポジウム(2)・全学共通科目の授業に関する評価・改善アンケート』報告書、2002年8月、71-180頁

【FD講演会など】

- ・溝上慎一「FDで何をどのように目指すのか——種々の改革実践を概観して——」愛媛大学大学教育総合センター主催FD講演会、2002年2月
- ・文部科学省メディア教育開発センター・京都大学高等教育教授システム開発センター共催「SCS利用研修 公開実験授業によるFD 学びあいのネットワークをめざして」研修講師、2002年2月
- ・田中毎実・溝上慎一「自己成長を目的とした場のデザイン——Web 掲示板使用を中心に見たKKJ 実践の成果——」文部科学省大学共同利用機関・メディア教育開発センター主催「Web を活用した学習環境デザイン研修」、2002年6月
- ・溝上慎一「京都大学のFD——工学系の授業参観プロジェクトを中心に——」関西工学教育協会高専部会・第26回夏期研修会、2002年8月

【非常勤講師など】

- ・大手前大学社会文化学部非常勤講師「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」(2001年度、2002年度通年)

神 藤 貴 昭(助手)

【著書など】

- ・神藤貴昭・尾崎仁美「教授者はどのようにストレスに対処しているのか——大学授業における教授者のストレス過程と自己成長——」京都大学高等教育教授システム開発センター(編)『大学授業研究の構想——過去から未来へ』、東信堂、2002年3月、87-115頁
- ・神藤貴昭・尾崎仁美「コメント3」京都大学高等教育教授システム開発センター(編)『大学授業研究の構想——過去から未来へ』、東信堂、2002年3月、219-222頁

【学術論文など】

- ・神藤貴昭・田口真奈・村上正行「高等教育におけるインターネット利用の可能性——バーチャル・ユニバーシティ構築に向けて——」『京都大学高等教育研究』第7号、2001年9月、111-130頁
- ・西田裕紀子・木村朋子・齊藤誠一・伊藤崇達・神藤貴昭・久木山健一・原田實・山口昌澄・柳原利佳子・榎本千春・藤井智子・石田亮一「中学生の生活スタイルに関する地域比較研究」『神戸大学発達科学部研究紀要』第9巻、2001年9月、19-30頁
- ・久木山健一・伊藤崇達・神藤貴昭・齊藤誠一・柳原利佳子・原田實・山口昌澄・下坂剛・西田裕紀子・榎本千春・木村朋子・藤井智子・石田亮一「現代青少年の「キレる」ということに関する心理学的研究(3)——キレ衝動抑制方略尺度作成の試み——」『神戸大学発達科学部研究紀要』第9巻、2001年9月、9-17頁
- ・神藤貴昭・齊藤誠一「中学生におけるいじめと学校ストレスの関連」『教育論叢』(神戸大学教育学会)第8号、2001年11月、23-35頁
- ・神藤貴昭「神藤貴昭担当授業」『平成13年度公開実験授業の記録』京都大学高等教育叢書13、2002年3月、171-191頁
- ・柳原利佳子・齊藤誠一・伊藤崇達・神藤貴昭・原田実・山口昌澄・下坂剛・西田裕紀子・久木山健一・榎本千春・木村朋子・藤井智子・石田亮一「現代青少年の「キレる」ということに関する心理学的研究(4)——生活習慣認知との関連——」『人間科学研究』(神戸大学)第9巻2号、2002年3月、53-66頁
- ・村上正行・尾澤重知・望月俊男・神藤貴昭・田口真奈・井下理・田中毎実「合宿を取り入れた遠隔合同ゼミにおけるWeb 掲示板での集団間コミュニケーションの分析」『コンピュータと教育』第64巻8号、2002年5月、57-64頁

【学会報告など】

- ・神藤貴昭・伊藤崇達・久木山健一・西田裕紀子・木村朋子・齊藤誠一「現代中学生の不適応に関する基礎的研究(8)——衝動的暴力抑制方略について——」日本教育心理学会第43回大会、愛知教育大学、2001年9月
- ・MURAKAMI, M., OZAWA, S., SHINTO, T., TAGUCHI, M. & TANAKA, T. (2001) "Analysis of Communication between Groups on Web Board in Distance Seminar with Lodging", ICCE2001, Seoul, Korea, 2001年11月
- ・神藤貴昭・田口真奈・村上正行「大学における学生主導型授業の可能性——授業枠のゆらぎ——」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001年11月
- ・神藤貴昭・伊藤崇達「高校から大学への学業文化の変容に対する適応過程について(1)——京都大学への進学者における学習方略の変容——」日本発達心理学会第16回大会、早稲田大学、2002年3月
- ・伊藤崇達・神藤貴昭「高校から大学への学業文化の変容に対する適応過程について(2)——共分散構造分析による因果モデルの検証——」日本発達心理学会第16回大会、早稲田大学、2002年3月

【その他の著作物】

- ・神藤貴昭「京都大学公開実験授業「ライフサイクルと教育」」日本発達心理学会ニューズレター、第34号、2001年10月、13頁
- ・京都大学企画・調整専門委員会調整(評価)小委員会、報告書『京都大学教育改善連続シンポジウム(2) 全学共通科目の授業に関する評価・改善アンケート』2002年8月

【非常勤講師など】

- ・大手前大学人文科学部非常勤講師「心理学研究法」(2001度、2002年度通年)
- ・大手前大学人文科学部非常勤講師「人格心理学」(2002年度前期)

【社会における活動など】

- ・センター公開研究会 神藤貴昭・田部井潤・田口真奈・村上正行「京都大学・慶應義塾大学合同ゼミ(KKJ)の実践——授業・インターネット・合宿を通じた学び」、2001年9月
- ・文部科学省メディア教育開発センター・京都大学高等教育教授システム開発センター共催「SCS利用研修 公開実験授業によるFD 学びあいのネットワークをめざして」研修講師、2002年2月
- ・文部科学省メディア教育開発センター共同研究員(共同研究分野名:メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発)、2002年度

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION 2001-2002

Yoshida-Honmachi, Sakyoku, Kyoto 606-8501

Tel. (075) 753-3087

Fax. (075) 753-3045

<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/highedu/>

Director: Mituhiko ARAKI, D.Eng.

1. INTRODUCTION

The Research Center for Higher Education was established in 1994 as an Inter-Faculty Research Center to improve the quality of the higher education in this era of university popularization and globalization. This center is managed by six staff members who are engaged in research, and is also administered by the governing committee consisting of eighteen professors from this and other faculties. This is the first national research institute for academic staff development, as well as for the improvement of curricula and educational evaluation in universities. Its main aim is to make further development of studies on teaching methods and systems for higher education. It also concerns with various fields of higher education studies including university management and student services.

The following are the main fields:

1. Investigation and research of creative thinking and its development through higher education
2. Reform of university curricula, including exemplification of educational contents in various fields and levels
3. Development of evaluation systems for university education
4. Practical counseling, seminar and training course for academic staff development
5. International and interdisciplinary researches on staff development
6. Research on adolescent mentality and student services

In every field, the center focuses on integration of theory and practice.

2. ACTIVITIES

1. RESEARCH AND STUDY

Research on Teaching and Learning, and Mutual Training (Faculty Development) through Open Laboratory Class

Since 1996, the center has been holding "Open Laboratory Class" which is open for professors who want to visit from this and other universities. The classes are given mainly by staff of the center, and the behaviors of students and lecturer are observed ethnographically and video recorded and afterwards attending professors discuss the class with the lecturer. Through these procedures, it is intended to have an opportunity for research and mutual training in teaching. The outcomes of this experiment are published in journals.

Project "Class Visit"

A relatively new project ongoing since 2000. Staffs of our center visit various classes of this university, with the ethnographic observation and interview of lecturers and students. The know-how or knowledge for teaching is collected so as to make the resource for staff development. The findings are also feed-backed to the lecturers to help them to reflect on and improve their teaching. This visit is not intended to outreach the knowledge, but to make a network for the mutual learning community of faculty members.

Research on Higher Education Evaluation

The study for higher education evaluation is one of the important fields of center's activity. In 1999, the center's fifth year, a self-evaluation and an external review were carried out. This was not merely a one-time evaluation as a special event or overview description, but an action-research of evaluation. The research generated from the study will help and develop the daily activities of various university departments and institutions.

Research on e-learning and Virtual University

The Center has been concerning the study on e-learning and virtual university these two years. This study is aided by the Japanese government subsidy for promoting scientific researches. In October of 2002 the center held an international conference entitled "Virtual University — future of our universities?". The focal point of this study is the assessment of the process of e-learning and its real impact on the total context of university education.

Research on Student Services

The center has been doing research on theories and systems of Student Services (or SPS; Student Personnel Services). This research aims to support students' personal growth in all facets of their lives, including extra-curriculum activities. These results are used to meet the expectation modern societies and the demands of higher education.

Psychological Research on Students and Adolescents

Understanding today's students will be helpful when university reform is designed. The center has been investigating adolescent theories by using questionnaire surveys and interviews targeting students still in adolescence, which is one of the most critical periods of their lives.

Questionnaire Survey concerning Development of Teaching and Evaluation Systems**1) Questionnaire survey to Kyoto University Graduates**

Questionnaire survey was implemented in 1996 to Kyoto University Graduates of the past three decades in order to grasp the changing needs and the effects of university education. The findings published in 1997 are referred to when university curricula and system reforms are designed.

2) Cooperation in Questionnaire Survey to 4th Years Students

In 1996, the center cooperated with the "Reviewing Committee for General Education" in carrying out the questionnaire survey to 4th years students to gain information of their life style learning activities.

3) Questionnaire Survey to Professors

Questionnaires survey targeted to professors of Kyoto Universities was carried out in 1998, to gain the information concerning to their interests in academic staff development and university reform.

4) Other Surveys

The center cooperates with "the Sub-committee for the arrangement and evaluation of General Education"

of Kyoto University to carry out the some questionnaire survey into the education at Kyoto University.

2. LECTURE AND SEMINAR

Monthly Open Seminar

Seminars or meetings are held monthly as a general rule, in which the latest results of higher education studies are presented by the staffs of the center or guest speakers. This seminar is open to everyone, and therefore it plays an important role in disseminating information concerning higher education studies in the universities and the wider community.

Forum of University Reform

This forum is held once a year and mainly targeted to higher education researchers and administrators including presidents and deans. Guest speakers as well as the staffs of the center give speeches, and various topics and problems relating to university reforms are discussed.

Congress of University Studies

This congress has been jointly held with the *Forum of University Reform* since 2001. It advertises for the speakers who present the studies on higher education studies, which are strictly requested to include the findings derived from their practice of higher education.

Workshop: "Education of Kyoto University"

Kyoto University organizes the summer workshop called "Education of Kyoto University" to improve its education. Professors from all faculties attend it to discuss the various problems of the education of Kyoto University. The center plays an important part in managing and planning this workshop.

Mini-symposiums for Faculty Development

The center cooperates with the "the Sub-committee for the arrangement and evaluation of General Education" of Kyoto University to manage the successive small symposiums for faculty development.

3. EDUCATION (2001-2002)

1. UNDERGRADUATE EDUCATION

Research Center for Higher Education offers several classes for "Subjects Common to All Faculties (Courses of Liberal Arts)" of Kyoto University. Each class is intend to be an advanced experience of the teaching and learning improvement, as well as an occasion that foster students' self-reflection and the mutual learning. These classes are also the important fields of our research.

2. GRADUATE COURSE

In 1998, the Department of Higher Education Research and Development was established in Graduate School of Education as a joint department offered by the center.

The courses are designed to cover various fields of higher education studies such as development of teaching and learning systems, development of evaluation systems, research on system and policy of higher education, and research on student affairs. Major focuses of these courses concern the integration of theory and practice.

It offers students the training to master basic methods and theories of higher education studies including reading papers and books, video taping analysis, questionnaire methods, and ethnographical approaches, so that they can plan and accomplish their own researches following their interests.

Students wishing to enter this department have to pass the master's course entrance examination that is held by Graduate School of Education. The master's degree is awarded upon acquisition of required credits and favorable acceptance of the thesis.

4. INTERNATIONAL EXCHANGE

GUEST SCHOLARS OR VISITING RESEARCH SCHOLARS

The center is open to receive guest scholars and professors from overseas. To date, the center has received four guest scholars from Harvard University (United States), Universidad de las Americas, Puebla (Mexico), and so on.

OVERSEAS STUDENTS

The center is also open for students from abroad who want to study at our center. They are requested to master Japanese in advance. In order to become a graduate course student, a student must pass the entrance examination held by Graduate School of Education. Research student status is also an option available to overseas students.

5. PUBLICATION

The center published the following books and journals.

1. "*Kyoto University Researches in Higher Education*" is annually published as the journal of this center. One can contribute papers on higher education studies written in Japanese (English is another available option).
2. Series of books named "*Kyoto University's Library for Higher Education Research*" are to publish the result of researches of this center. Fourteen volumes have been already published.

Vol. 1 "The questionnaire survey into Kyoto University graduates" 31st March 1997

Vol. 2 "The initial studies for higher education " 30th June 1997

Vol. 3 "Open Laboratory Class in 1996" 31st March 1998

Vol. 4 "Open Laboratory Class in 1997" 31st March 1999

Vol. 5 "The questionnaire survey into Kyoto University professors for the improvement of higher education " 25th March 1999

Vol. 6 "Open Laboratory Class in 1998" 31st March 2000

Vol. 7 "What was going on in the KKJ project (Kyoto-Keio Joint Seminar: Learning through classroom, Internet and staying together" 31st March 2000

Vol. 8 "Open Laboratory Class in 1999" 31st March 2000

Vol. 9 "Towards the generative evaluation for organizations: Self-study and external review report" 31st March 2000

Vol. 10 "Open Laboratory Class in 2000" 31st March 2001.

Vol. 11 "Project *Visiting Class* vol. 1 " 31st March 2001.

Vol. 12 The debate style symposium for faculty development of engineering education" 31st March 2002.

Vol. 13 "Open Laboratory Class in 2001" 31st March 2002.

Vol. 14 "Project *Visiting Class* vol. 2" 31st March 2001

3. "*For Research and Development of Teaching System*" was the first book of this center which was published in 1995. "*Toward the Openness of University Classes — First year of the Open Laboratory Class of Kyoto University*" was published in 1997 as the first book on Open Laboratory Class, and "*The fieldwork into University Class*" is published in 2000 as the second one. The latest publication is "*The Plans for University Studies — from the past toward the future*" published in March 2002.

6. STAFF

Professor

FUJIOKA, Kanji, Teaching method, Teacher education.

TANAKA, Tsunemi, Educational philosophies

Associate Professor

MATSUSHITA, Kayo, Educational methods, Theory of learning

OYAMA, Yasuhiro, Clinical psychology, Evaluation of higher education.

Lecturer

MIZOKAMI, Shinichi, University student psychology, University curriculum

Instructor

SHINTO, Takaaki, Educational psychology, Developmental psychology

Clerical Employee

KANZAKI, Naomi

YOSHIMURA, Kayo

YAMASHITA, Fumie

『京都大学高等教育研究』編集規定

平成14年10月31日制定

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育教授システム開発センターが発行する研究誌である。
 2. 本誌には、本センター関係教官の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。但し、投稿論考については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
 3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
 4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
 5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
 6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
 7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。
- (附則) 本規定は、平成15年度発行の『京都大学高等教育研究』第9号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿規定

平成14年10月31日制定

(全般)

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は研究論文、研究ノート、実践報告に区分される。投稿時にいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
3. 論考は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告に区分される。研究論文は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。研究ノートは、高等教育研究への有益な資料となる論考である。実践報告は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成するものとする。
 - ・ A4判用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
 - ・ 40文字×25行の1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする(図表、註、参考文献を含む)。
 - ・ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
7. 論考原稿3部(うち2部はコピー可)及び原稿を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名(ふりがな)、所属(職名その他を含む)、連絡先(郵便番号、住所、電話番号)、希望区分(研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか)を記入した用紙を添付する。

(用語)

8. 論考は原則として日本語を用いて作成すること。但し、日本語以外の言語による投稿については、編集委員会に相談のこと。
9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。但し、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

(註・引用文献)

11. 註及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目(日本語文献の場合、「」内に記載)、雑誌名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、発行所の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目(日本語文献の場合、「」内に記載)、編者、書名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原語の著者名、原書発行年、原書名(斜体字)、原書発行所名を書き、その後に()内に訳者名、訳書の発行年、訳書名(『』内に記載)、訳書の発行所名の順に記載する。(下例を参照のこと)

・論文

大山泰宏 2002「大学教育評価の課題と展望」『京都大学高等教育研究』7号, 37-56頁。

Hermans, H. J. 1970 A questionnaire measure of achievement motivation. *Journal of Applied Psychology*, 54, 353-373.

・単行本

讃岐幸治・田中毎実(共編) 1995『ライフサイクルと共育』青葉図書。

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel.

溝上慎一 2002「学生の理解の枠組みをふまえた授業展開」京都大学高等教育教授システム開発センター(編)『大学授業研究の構想——過去から未来へ——』東信堂 57-86頁。

Hermans, H. J. M. 1995 From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy*. American Psychological Association. Pp. 247-272.

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel. (南博訳 1995『メディアはメッセージである』河出書房新社。)

12. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で(1)、(2)……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 引用文献は、本文中では、著者名(出版年)、あるいは(著者名, 出版年)として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c,……をつける。

例 ・田中(1995a)が強調するように、……という調査結果も提示されている(田中, 1996)。

(その他)

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し掲載誌2部と抜き刷り50部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。
原稿締切日 7月31日
16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育教授システム開発センターに属する。
17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

(付則) 本規定は、平成15年度発行の『京都大学高等教育研究』第9号から施行する。

Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 8

CONTENTS

I Articles

Articles of Center Staff and Research Fellows

- Toward the Integrated Clinical Theory on Menschen- bildung through Practical Research
on the University Education Tsunemi TANAKA
- Research on Teaching at University in an Era of Student Consumerism in Japan:
An Analyzing Learning Activity Kayo MATSUSHITA
- Reconsidering the Way of University Educational Reform Starting from the "Field":
Existence of Academic Community at Kyoto University and the Pressing Demands of the Times
..... Shinichi MIZOKAMI
- "Place" and "Identity" in learning support project "Psychology of College Students"··· Kazuhito OZAWA
- Student Motivation on Attend the "Learning Support Project for University Students:
The Version of University Life" Reiko MIZUMA

Papers

- A Quest for General Education as "Integrated Learning Experiences"
— "University Studies" at Portland State University Koichi TAKEKUMA
- Holistic Space and Environment: Proposition for University Education ··· Michiyo ASSEMAT (Madoca)
Toshiko GLOVER
Yoshie KASAJIMA
- The Freshman Seminar at Kyoto Koka Women's University: "Daigaku-Kiso-Kouza" ··· Tetsuya FUJITA
- Optimizing information literacy education for the first year course of the Faculty of Education (III):
Assessment by a computer literacy test Masuo KOYASU
Hajimu HAYASHI
Arata NISHIO
Motonori NAKAMURA

Notes

- The "Open Class" held at Wakayama University Masaaki YOSHIDA

Reports

- FD and Power of Students Masaru HASHIMOTO

II Documents

VIIIth Forum of University Reform; How Do We Develop the University Educational Evaluations?

— Beyond Evaluation to Faculty Development —

- Opening Remarks Mituhiko ARAKI
- Commencement Makoto NAGAO
- Keynote Speech Shinichi MIZOKAMI
- Presentation of the Problems I Akira TACHI
- Presentation of the Problems II Takashi YASUOKA
- Presentation of the Problems III Yasuhiro OYAMA
- Discussion
- Summary Tsunemi TANAKA
- Closing Remarks Mituhiko ARAKI

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2 0 0 2